

小山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	人間と科学Ⅱ（社会学Ⅱ）	
科目基礎情報							
科目番号	0028		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	物質工学科		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	神谷悠介『ゲイカップルのワークライフバランス』新曜社						
担当教員	神谷 悠介						
到達目標							
(1) 家族社会学の主要な概念・理論・方法を習得することができる。 (2) ジェンダー・セクシュアリティ・階層・エスニシティなどの視点から家族をめぐる問題を考察することができる。 (3) 個人化・多様化する家族への法的保障のあり方を検討することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		家族社会学の主要な概念・理論・方法を正しく習得することができる。		家族社会学の主要な概念・理論・方法を習得することができる。		家族社会学の主要な概念・理論・方法を習得することができない。	
評価項目2		ジェンダー・セクシュアリティ・階層・エスニシティなどの視点から家族をめぐる問題を正しく考察することができる。		ジェンダー・セクシュアリティ・階層・エスニシティなどの視点から家族をめぐる問題を考察することができる。		ジェンダー・セクシュアリティ・階層・エスニシティなどの視点から家族をめぐる問題を考察することができない。	
評価項目3		個人化・多様化する家族への法的保障のあり方を正しく検討することができる。		個人化・多様化する家族への法的保障のあり方を検討することができる。		個人化・多様化する家族への法的保障のあり方を検討することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		家族社会学の主要な概念・理論・方法に注目する。具体的にはジェンダー・セクシュアリティ・階層・エスニシティなどの視点から家族をめぐる問題を考察し、個人化・多様化する家族への法的保障のあり方を検討する。					
授業の進め方・方法		上記3点について、前期中間試験・前期末試験・後期中間試験・後期末試験、および授業内課題によって評価する。前期中間試験・前期末試験・後期中間試験・後期末試験を80%、授業内課題を20%で評価する。					
注意点		特になし。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1. ガイダンス		授業の到達目標および基礎概念を確認する。		
		2週	2. 家族をめぐる諸問題		家族をジェンダー、多様性、階層などから考察する。		
		3週	3. ジェンダー——性別役割分業		家族における性別役割分業の問題を理解する。		
		4週	4. 家族の多様性		家族の多様性を時代・社会などの次元から把握する。		
		5週	5. 階層と格差		階層と格差の視点から家族をめぐる問題を考察する。		
		6週	6. グローバル化する家族 1		グローバル化の中での国際結婚の変容を捉える。		
		7週	7. グローバル化する家族 2		外国人家事労働者に関する問題を理解する。		
		8週	8. 中間試験		ここまでの内容を復習する。		
	4thQ	9週	9. 少子高齢化社会における介護と家族		介護をめぐる家族に生じる問題を理解する。		
		10週	10. 墓と弔いのゆくえ		墓と弔いは社会の変容を反映することを理解する。		
		11週	11. シェアハウジング		近年広がりつつあるシェアハウジングを考察する。		
		12週	12. 親密なパートナー関係の多様化 1		法律婚・事実婚をめぐる問題を理解する。		
		13週	13. 親密なパートナー関係の多様化 2		同性婚をめぐる問題を理解する。		
		14週	14. 多様な関係性への法的保障 1		個人単位アプローチを検討する。		
		15週	15. 多様な関係性への法的保障 2		親密性・ケア・生活の分節化アプローチを検討する。		
		16週	後期定期試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0